審 査 論 文 要 旨（日本文）

論文提出者氏名：　岸田功典

審査論文

題　名：高齢者の入浴・洗浄回数と皮膚の状態に関する調査・研究

著　者：岸田功典、斎藤万寿吉、山﨑正視、長谷哲男、坪井　良治

掲載誌：西日本皮膚科（2018 年掲載予定）

（審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words）

【背景と目的】

高齢化社会において、病院や施設に入所している患者の入浴環境は、患者のみならず介護側からも検討すべき課題である。しかし、今まで高齢者の入浴回数・洗浄回数に関して、至適な入浴環境を検討する試みはほとんどなかった。今回我々は多摩・相模原地域の病院・施設医療者に入浴回数や皮膚状態に関するアンケート調査を行い、また入院している患者に足浴を毎日実施することで皮膚状態が変動するかを、いくつかの指標を用いて検討したので報告する。

【対象および方法】

多摩・相模原地域の 67 病院の病棟責任者に無記名方式で入浴・洗浄に関するアンケートの協力を依頼した。さらに、同地域の 3 病院、7 病棟に入院している 60 歳以上の男女を対象にして皮膚状態を観察した。実施した患者数は 41名で、男性 27 名、女性 14　名、年齢の範囲は 60−89　歳であった。対象患者の入浴回数はもともと週 2 回であり、週 2 回の入浴はそのまま継続とし、定時入浴に加えて左下腿だけを入浴日以外週5回バケツ内で足浴することにより、左下腿のみ毎日入浴している状態を設定した。評価項目は、①皮膚水分量、②皮膚水分蒸散量（TEWL: Trans Epidermal Water Loss）、③皮膚 pH、④皮膚表面の細菌数、⑤医師による臨床評価とし、足浴を追加する直前および追加 2 週間後に判定した。

【結果】

アンケートは 41 病院、105 病棟の責任者 105 名（主に看護師長）から無記名方式で回答を得た。主な結果は、入浴の回数は週 2 回が最多（55.2%）で、入浴回数を決めた根拠は、「今までの慣例」、「人員的な理由」が大多数を占めた。

皮膚水分量検査では、週 7 回洗浄した左下腿（以下週 7 回洗浄群）において、伸側・屈側ともに週 2 回洗浄の右下腿（以下週 2 回洗浄群）に対して皮膚水分量が有意に多かった。TEWL 検査では、伸側においては週 7 回洗浄群のほうが週 2 回群に比し有意に増加していた。pH 検査においては、伸側、屈側のいずれにおいても週 7 回洗浄群が週 2 回洗浄群に比して上昇し中性域に近づいていた。細菌培養では、一定の傾向は見いだせなかった。医師による臨床評価では差は認められず、スコア判定もほぼ同値であった。

【結論・考察】

週 2 回の入浴が皮膚の乾燥を防ぎ皮膚の衛生状態を保つための最適条件であることは導き出せなかったが、連日の足浴を 2 週間追加したことにより皮膚の乾燥傾向が出始めることが示唆された。皮膚の乾燥状態を考えると、高齢者においては週 2-3 回までの入浴洗浄が妥当と思われた。